

32期新体制発足

第32期 菅谷良夫

32期は水谷コーチの下、菅谷主将・高宮副主将・野中・高須・大池(勝)・森本の3年生6人を中心にチームが作られた。平均体重が70kgに満たない軽量チームで、更にFW-BK間に対格差もなくチーム作りが課題となった。2年生メンバーの特徴を活かし第3列の展開力を軸に玉出しを速くし、BKのランニング・パスプレーを中心に展開するチームを目指した。

[新人戦で目黒高校と対戦]

32期新チーム最初の公式戦は新人戦。当時は開催グラウンドにチームが帰属し、帰属チーム内で対戦相手を個別に決定するシステムで所属グラウンドは明大八幡山であった。ミーティングでの結果、3試合目の対戦相手は前年度全国優勝した目黒高校。年に一度は最高のチームと試合をしたいという願いがかなっての2年連続での対戦となった。試合は終始目黒高校のペースで進みハーフタイムで目黒高校はポジションチェンジを行うほどの余裕。千歳はディフェンス中心に頑張っているもののトライを奪われ、徐々に点差が開いて行くが後半敵ゴール前のスクラムから右フランカー高宮がサイドをつきフォローしたSO大池(柳)にパス、そのまま中央トライ、ゴールも決まり念願の目黒高校からの得点、試合結果は6-36と大差がついたもののチームとしては満足のいく結果だった。

[東京都大会]

東京都大会は関東大会の予選も兼ね、1年のなかでチーム最大のイベントであった。特に今回出場すると5回目の出場となり何としても気持ちで大会に臨んだ。関東大会出場校は12校、ベスト16まで残れば得失点差で

出場の可能性が残るためブロックの準々決勝出場が大きな目標となった。1回戦は都立新宿高校。失点0と順調に勝ち、2回戦へ。2回戦は都立国分寺高校、ここでアクシデントが生ずる。試合は千歳ペースで展開したものの、両校ともプレーが荒くなり険悪なムードが流れレフェリーから次に何か不祥事があつたら即刻退場させる旨の警告を両校キャプテンが受ける。その数分後、国分寺スクラムからSHがダイビングパス、フランカー森本はSOヘタックルにいこうとスクラムからブレイクした瞬間、目の前にたおれていたSHの頭を蹴ってしまった。レフェリーの無情ともいえるホイッスルと共に退場の声。故意でなく完全にアクシデントではあったが試合コントロールのためのジャッジ。14人で試合を続けることになった。そこまでの得点と14人のディフェンスで15-6と勝ち、念願の準々決勝へ胸を進めることが出来たものの試合後、大会関係者から次の試合に勝たなければ関東大会への推薦は無理との話を関東大会参加規程と共に受けた。注目の準々決勝の相手は城北高校。常に都大会上位の強豪校。千歳はタックルで何とか相手の攻撃を抑えるものの、味方ボールの展開のタイミングが見えず得点チャンスなし。逆に城北はライン攻撃から一転、千歳両ウイングの裏へバント攻撃を開始、ボール処理にもたつく間に城北BKがボールを拾い上げトライ。結局キックから揺さぶられ0-20の完敗。関東大会の夢と共に春の大会は終了した。

[夏合宿]

恒例の夏合宿は山中湖。ランパス・ドンドンと練習はここ数年のお決まりメニュー。例年土・日はOB諸氏が大勢参加してのOB戦。今年は春のラグビー祭でOBに勝

っているため、合宿でも勝ってOB戦連勝を目論んだ。連日の練習のため疲れが頂点に達し、思ったプレーができないでいるなか1年生WTB石瀬がOBにハードタックル。OBのA氏は「みぞおちー」と叫びながら退場。試合結果は別にして収穫のあったOB戦だった。練習試合は地元の島田工業高校。試合前の情報では静岡県でベスト4の実績とのこと。もしこの試合負けたら終わりのないドンドン地獄。プレッシャーのなかでキックオフ。開始早々、島田工業BKがラインを抜け出てトライ。メンバー全員に暗いかげが落ちる。しかし、開き直ったためか攻撃にリズムができトライの山を重ね、36-6で大勝。前日からのプレッシャーが嘘のような試合であった。試合のなかでハブニングーCTB菅谷が後半ゴール前で抜け出てトライと飛び込む寸前、相手ディフェンスが菅谷の背中を押し、菅谷は鉄製剥き出しのままのボールへ頭から激突。観戦していたOBは天を仰いだとの話。よくて骨折、打ち所が悪ければ命もと心配したなか起き上がる菅谷。幸、持っていたボールがクッションになって鎖骨部分の打撲だけで助かったものの部員からは悪運の強いキャプテンと言われたとか。

(合宿裏話) 寝ぼけ癖のあるプロップ野中は夢の中でスクラムを組み続け、ロック大池は合宿3日目でウルトラマンに変身、ドンドンと共に合宿の名物になったとか？

[秋のシーズンー打倒城北高校!？]

秋のシーズンは都立青山高校との練習試合で幕を開けた。9月はけが人も多くチームとして今1つ波に乗れず試合はするものの勝ったり負けたりで全国大会予選に挑んだ。トーナメント表を見ると順調に勝ち続ければ

春と同じ準々決勝で城北高校と対戦。なんとしても再戦し春の雪辱を果たしたいと部員全員で大会に臨んだ。1回戦は明治学院大学付属東村山高校。対戦の前週にマネージャーが練習を見学にきた。こんなことは初めてで快く受けるものの高宮副主将の悪知恵で「今日はFW中心の10人ラグビーの練習だ」と試合でやったこともないハイバントからのFWラッシュの練習を続ける。試合当日キックオフ早々のスクラムで「ハイバンケアー」の声。じつはその時のチームはランニング主体のチームでライン攻撃が中心。相手の裏をかいたのか、はたまた実力か25-0で楽勝した。2回戦は帝京高校。開始早々から相手陣での攻撃が続く。敵ゴール前でペナルティーからサインを無視してFW攻撃「ラインにまわせー」の声の中ホイッスル。何とプロップ高須のそれも初トライ。試合は45-0で完勝。これで次の試合は城北高校との対戦となった。

城北高校との試合は春に続いて城北高校グラウンドにて行われた。3年生で最後までクラブ活動をやっていたためかクラスメートの応援がみられた。キックオフ早々相手センターのパスをCTB菅谷がインターセプトしゴール前10メートルまで持ち込むが相手WTBにタックルされ得点できず。結局試合中敵陣に進んだのはこのプレーだけ。0-44の完敗。夏合宿をはさんだ半年間で実力差が離れ自分達の限界・実力を思い知らされた一戦だった。3年生にとっては最後の試合となったが完膚無きまでに叩きのめされかえって気持ちの整理のできた最終戦だったような気がする。

○千歳高校ラグビー部32期戦歴&メンバー

新人戦

対都立青山 4-17

対都立小石川 16-4

対目黒 6-36

練習試合

対成城学園 4-20

春季東京都大会

対都立新宿 22-0 (1回戦)

対都立国分寺 15-6 (2回戦)

対城北 0-20 (準々決勝)

練習試合

対島田工業 36-4 (於夏合宿)

対都立青山 4-8

対都立松原 18-21

対都立千歳ヶ丘 26-4

対専修大付属 16-0 (於文化祭)

全国大会東京都予選

対明学東村山 25-0 (2回戦)

対帝京 45-0 (3回戦)

対城北 0-44 (準々決勝)

○32期メンバー

1.高須 2.横山 3.野仲 4.大池勝 5.田村

6.森本 7.高宮 8.国守 9.樋口 10.大池柳

11.石瀬 12.高橋 13.菅谷 14.斎藤 15.古川

(第 32 期
同期生からのことば)

通勤途中の階段を走って上れば、激しい息切れ。息子にパパは昔はラグビーのエイトをやっていたと言えないと思うこの頃です。

高宮正実

一年の合宿の時体力がなくランパスもついていけなかった私は、疲労の為眼がハレてしまいウルトラセブンと呼ばれました。

大池勝